

新撰地理小志

山田行元編

元

大日本教育會館  
第六室  
二冊 九架 二函

特31

535



山田行元編

元卷

# 新撰地理小志

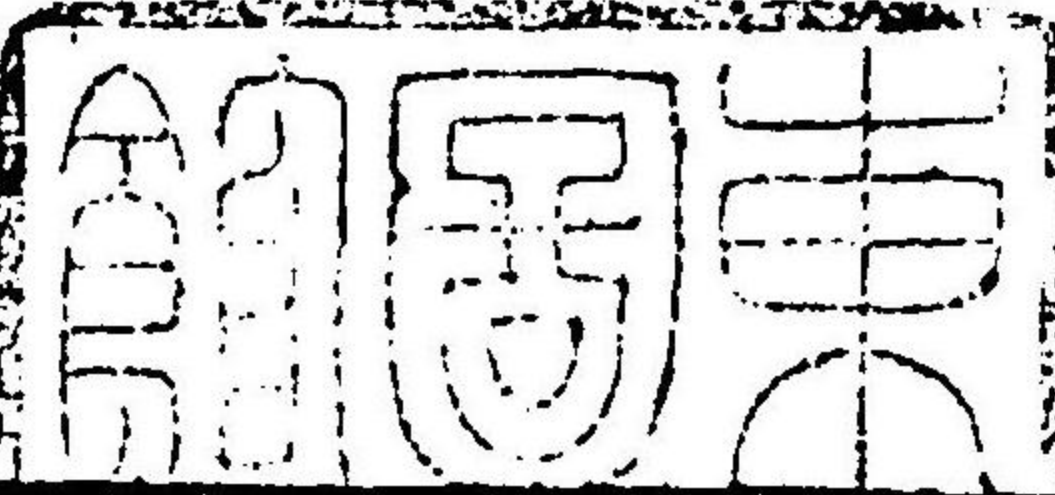
香風館藏版

定價金拾錢

新撰地理小志小引

予明治九年を以て初學地理書と命つけたる一篇の地志を刊行し既に  
 四方に用ひらるゝと雖予の竊に其旨趣澹泊は過ぎて未兒童貪知の性  
 を廢しむる不足らざることを感じ故に今更に其體裁を變じ近來歐  
 米諸國に行はるゝ新版の小學地志を倣ひて此新撰地理小志を編せり  
 即其大體ハ先兒童の最厭ひ易き地理學の義例用語を篇首に論するこ  
 とを止めて問を予が掌上に置ける地球儀に發し其地面の大勢を論せ  
 るを我輩の居住せる地面の一點より説き起して漸く世界の廣大ある  
 ことを論し其世界の運動晝夜及四時の變化等を論するハ一々兒童の  
 才智に應じ可き適例實況を擧げてこれを説示し遂に世界ハ五種の人  
 民ありてこれに住し此人民相集りて多くの國を成さる一段に及ぶし  
 更にこれを我輩の自國ある日本に約して五畿八道の地理を論し再之  
 を博めて世界各國の地理を論じ其局を結べる者あり文章の意味洞徹  
 して了解易からんことを欲し且各國志の如きも亦地理志の本體不

特31  
535



新撰地理小志小引

香風館藏版



山田行元編

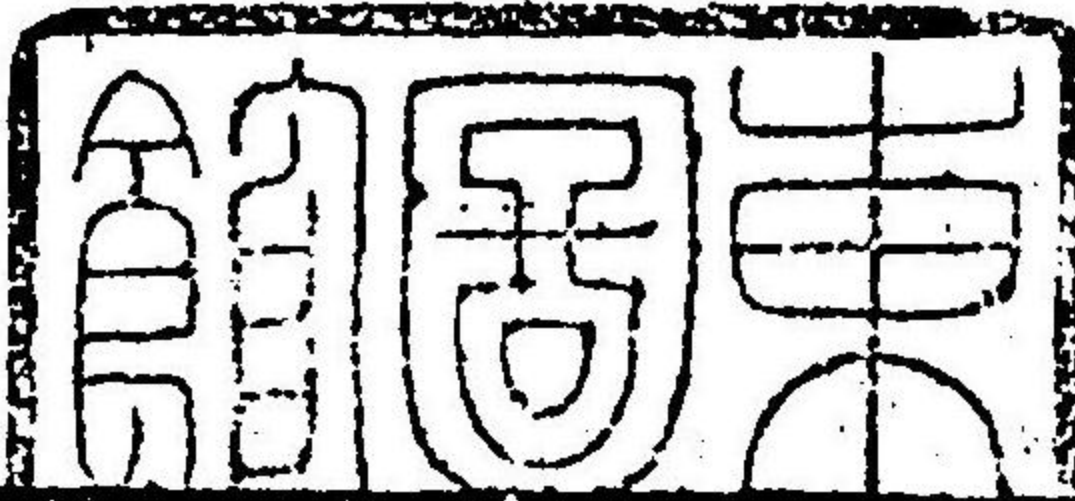
元卷

# 新撰地理小志

香風館藏版

新撰地理小志小引

予明治九年を以て初學地理書と命つけたる一篇の地志を刊行し既に  
 四方通用ひらるゝと雖予の竊に其旨趣濶泊は過ぎて未兒童貪知の性  
 を慮りむる不足らざることを憾む故に今更に其體裁を變じ近來歐  
 米諸國を行ゆる新版の小學地志を倣ひて此新撰地理小志を編せり  
 即其大體へ先兒童の最厭ひ易き地理學の義例用語を篇首に論するこ  
 とを止めて問を予が掌上に置ける地球儀を發し其地面の大勢を論せ  
 るを我輩の居住せる地面の一點より説き起して漸く世界の廣大なる  
 ことを論し其世界の運動晝夜及四時の變化等を論するハ一々兒童の  
 才智に應じ可き適例實況を擧げてこれを説示し遂に世界ハ五種の人  
 民ありてこれに住し此人民相集りて多くの國を成さる一段に及ぶし  
 更にこれを我輩の自國ある日本に約して五畿八道の地理を論し再之  
 を博めて世界各國の地理を論じ其局を結ぶる者あり文章の意味洞徹  
 して了解易からんことを欲し且各國志の如きも亦地理志の本體不



特31  
535

新撰地理小志小引

香風館藏版



由りて地圖を掲載し難き事實を記載することを目とし其事の務めて  
 兒童の意に適し可き珍奇愉快の者を記せり然るも其骨子とする所  
 の一として地理學上の定則確説を據らざるはあく義例用語解の如き  
 をこれに篇首に載せざると雖亦書中在る所に隨ひて其義理を釋明され  
 ば此書を學ぶ兒童等其厭ふ可き者に見せりて自益を收むるに至らん  
 こと疑無し予が編書の主意幸に四方教育家の持論に適して小學教科  
 の缺を補ふことを得べ亦以て予が編纂の苦心を慰むるに足らん  
 此書の積數限なきに記事節略せる者多し學生既に此書を通讀せる後  
 の更し予が編次せし中地理書を就きて詳細に各國の疆域形勢物産民  
 俗都邑政府及宗教史記等の説を講究せしめ又此書を教授する者の書  
 中は挿入せる所の地圖を以て地理と丁寧な説示し更し予が編製せし  
 暗射地圖を就きて地理を暗射せしめ學生の地理の記憶を鞏固せし  
 むること小注意す可し

題首

地理之爲學其用極廣  
 矣航海通商軍旅不審  
 地理則不能焉務農業  
 事經濟者不知地理則  
 不能焉或學地質動植  
 礦物或講歷史法律政  
 事者不通乎地理則其  
 旨不明天下之學固不  
 一而足矣然其最要且  
 有益者未有愈於地理  
 學者也學者豈可忽乎



新編地理



新撰地理小志卷一

山田行元 編

第一章 世界

汝余が手小持てる物を見よ。此球形の畫い。これを地球儀と稱へ。即世界の形小擬へて。其外面の有様を畫きたる者なり。然まども世界と云へるは。我等が住居をる廣大の地面のこと小て。其實斯の如く小さき物小い非ざるなり。

余が此家の。我等數人を容るゝ小足り。家と繞まる庭園も。廣のくゞと爲さば。然まども出で。門外を望めば。他小夥多の家屋と庭園ありて。先は廣くと爲せる

者も。僅小我郷の一小隅たる小過ぎざることを知らん。

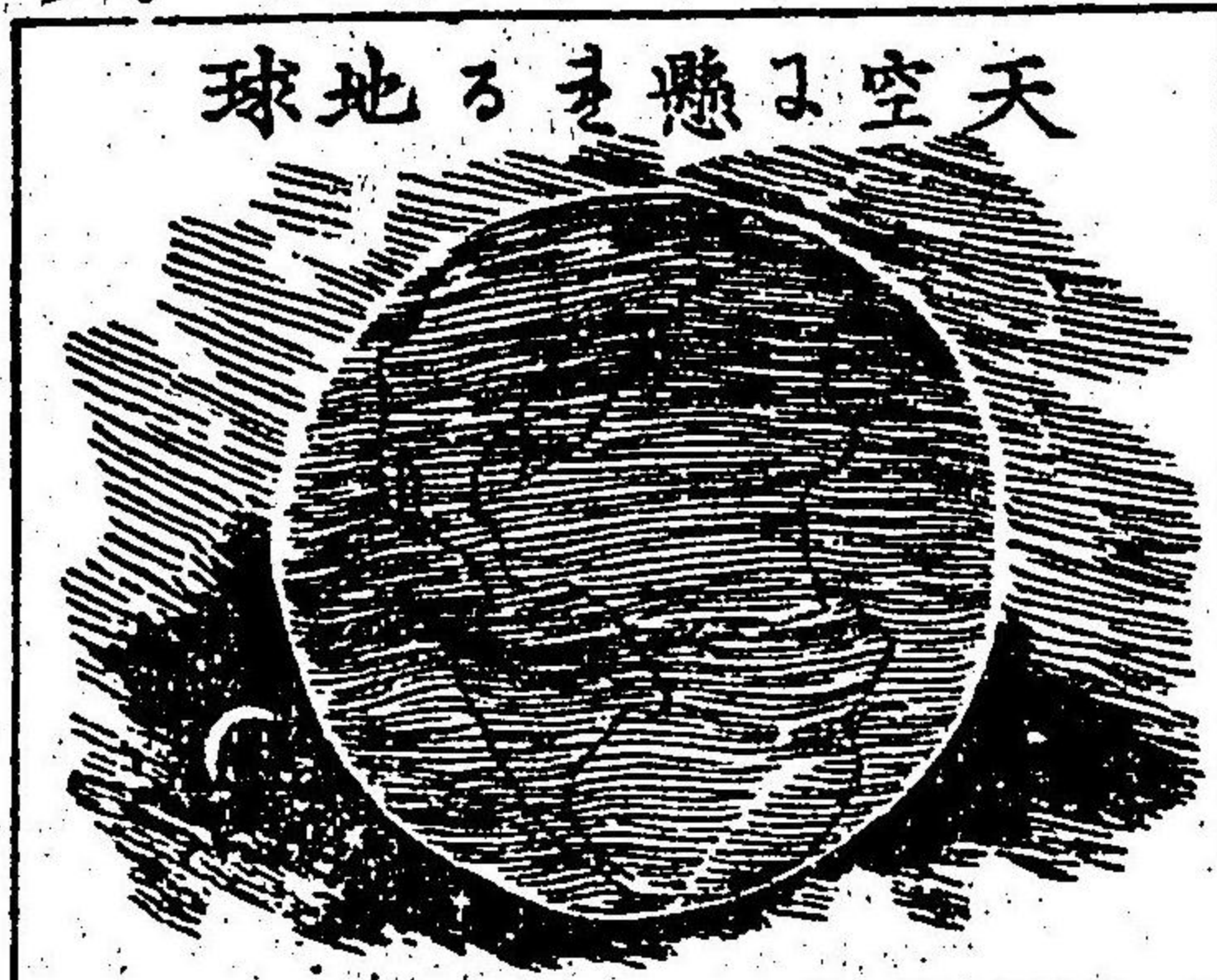
更よ又高丘小登りて。遠く望む時ハ。廣大ある原野。渺茫として極里ある。或ハ山嶺遙小雲際と連をる。つりて。我郷の如きも。亦唯其地方一點の地小過ぎざることを知る小至らん。

然る小此廣大ある地方と雖。畢竟我日本の一小隅たる小過ぎば。我日本ハ。方一里の地。凡二萬四千八百區あり。我日本ハ。斯の如く廣大あれども。更よ其まを世界の大小ある小比ぶる時ハ。其小さきこと。恰橙子の皮面ある一凸處の如くある可し。



然まば世界の廣大あることハ實ハ物の比ぶ可まふ  
く。其周リハ凡一萬百四十四里なりて。汝日ふ十里づ  
つ旅するとも。殆三年の月日を費まふ非ざれば。こま  
を一周するること能まざる可し。

故ふ我等の眼ハ唯世界の一小部のまを見る可く  
し。其全形を見ること能まば。然ま  
ごも。我等が見ることを得可ま他の  
世界なり。月。即是あり。月ハ天空ハ懸  
り。下よりこれを支ふる者あくし。そ  
落ちば。我世界も。亦月の如く。下より  
これを支ふる者あくし。そ落ちば。其



教師地球の圓形を  
る證據を  
舉ぐべし

形も亦月の如く圓あり。故ふ月の世界ふ人なりて。我  
世界を望まば。其觀恰我等が月を觀る如くある可し。  
月の世界ハ。我輩其委まきを知ることに能まば。然まごも  
我世界ハ。親く各地ふ遊歴し。其形勢風俗等々を觀察  
まることを得可し。是地理の學つる所以あり。

第二章 世界の續

我世界ふ在りてハ。日の出づる方と東とし。日の入る  
方を西とまること。顧ふふ汝これを知らん。更ま又日  
の中まる方ハ南よし。日中萬物の影の指ま方を北  
あることを記せよ。東西南北をこれを四方と稱ふ。又  
西と北との間の方角ハ。これを乾と稱へ。西と南の間

尚磁針盤  
を以て指  
教せよ



い。これを坤と稱へ。東と南の間い。これを巽と稱へ。東と北の間い。これを艮と稱ふるなり。

太陽ハ。日々東天より現れ。輝々たる光彩を放ち。遂は西天に隠る。汝これを見て。太陽我世界の周圍を回行する者とせん。然きども其實ハ否らば。我世界こそ。太陽に向ひて。西より東の方より回轉する者あり。而して其一度回轉する時間と。二十四時即一日よりして。球形ある世界の兩面更々晝夜をまはる者なり。汝一穗の燭火を取きて。地球儀を照らさば。其半面の燭光を受けて。明いふ。半面の暗きを見ん。又徐に地球儀を轉回せざ。前と異りて。其暗き所の漸く明かふ。其明いなる

又亞米利加をも書

所漸く暗くあると見ん。世界晝夜の變化ハ。恰是の如

故に我國は在りて。太陽既西天に没し。人々漸く臥床に就くの時。當さふ我と反對ある。亞美利加の某の國は在りて。旭日始めて光を放ち。兒童等相伴ひて。學校に登り。學習を爲し。或は遊歩を爲すの時あるべ

世界ハ一處に止まりて回轉する者ハ非也。又自回りあがら。太陽の周圍を運行し。三百六十五日。即一年の間。これを一周する者にて。其狀恰獨樂の回り轉りて。環の形を爲さざらば。是は於きて。汝ハ我世界ハ二

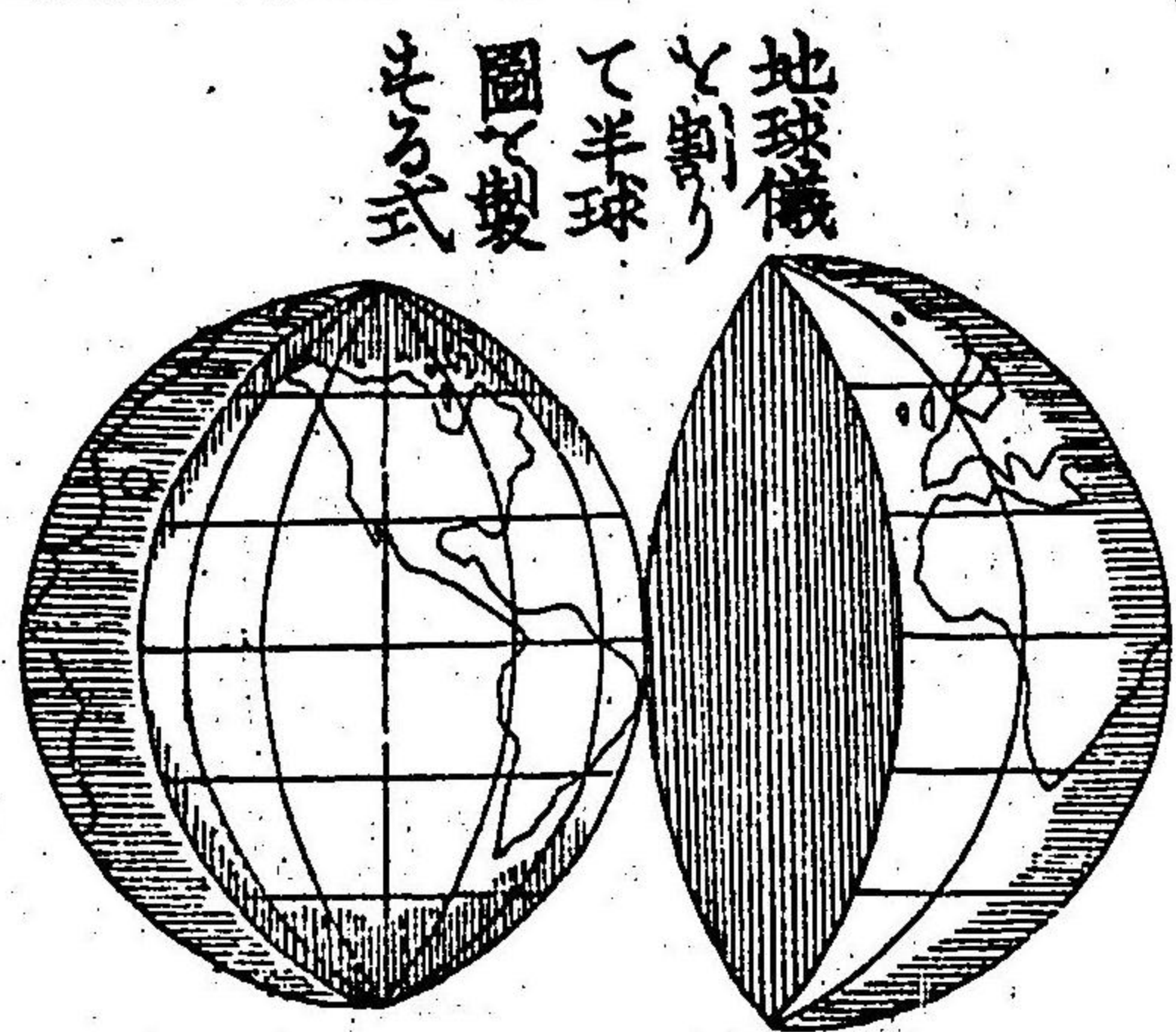


地運儀を以て指教せよ

種の運動の如くことを知らん。<sup>\*</sup>

第三章 世界の續

余今汝の爲に世界の圖を顯せしめて其有様を示さんとす。然るに書籍の紙面は團圓なる此地球儀を置くこと能わざるを如何せんや。依りて余は地球儀の真中より二つに割り割りたる所の平面より兩半球の地圖を描きて汝に示さんとす。



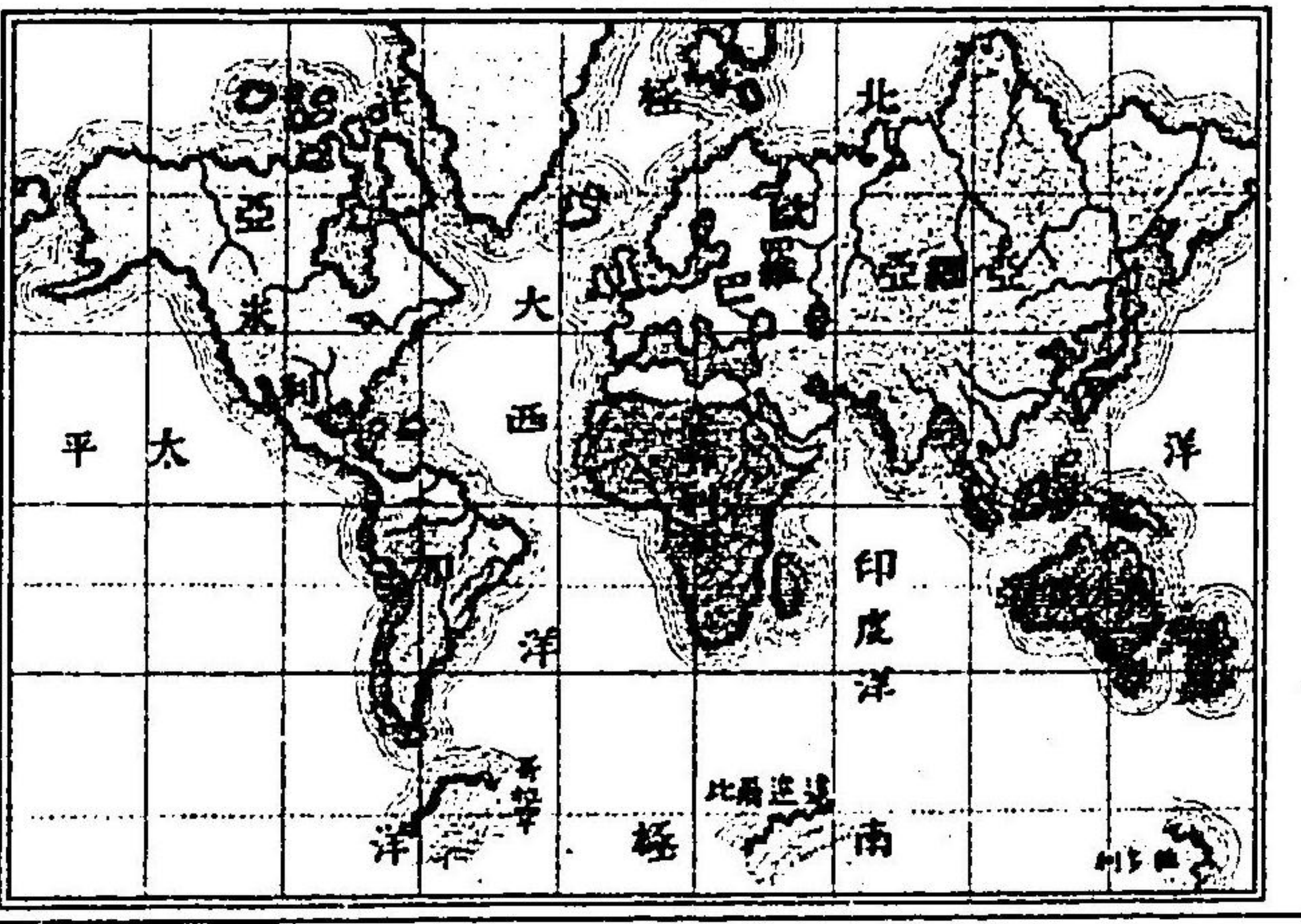
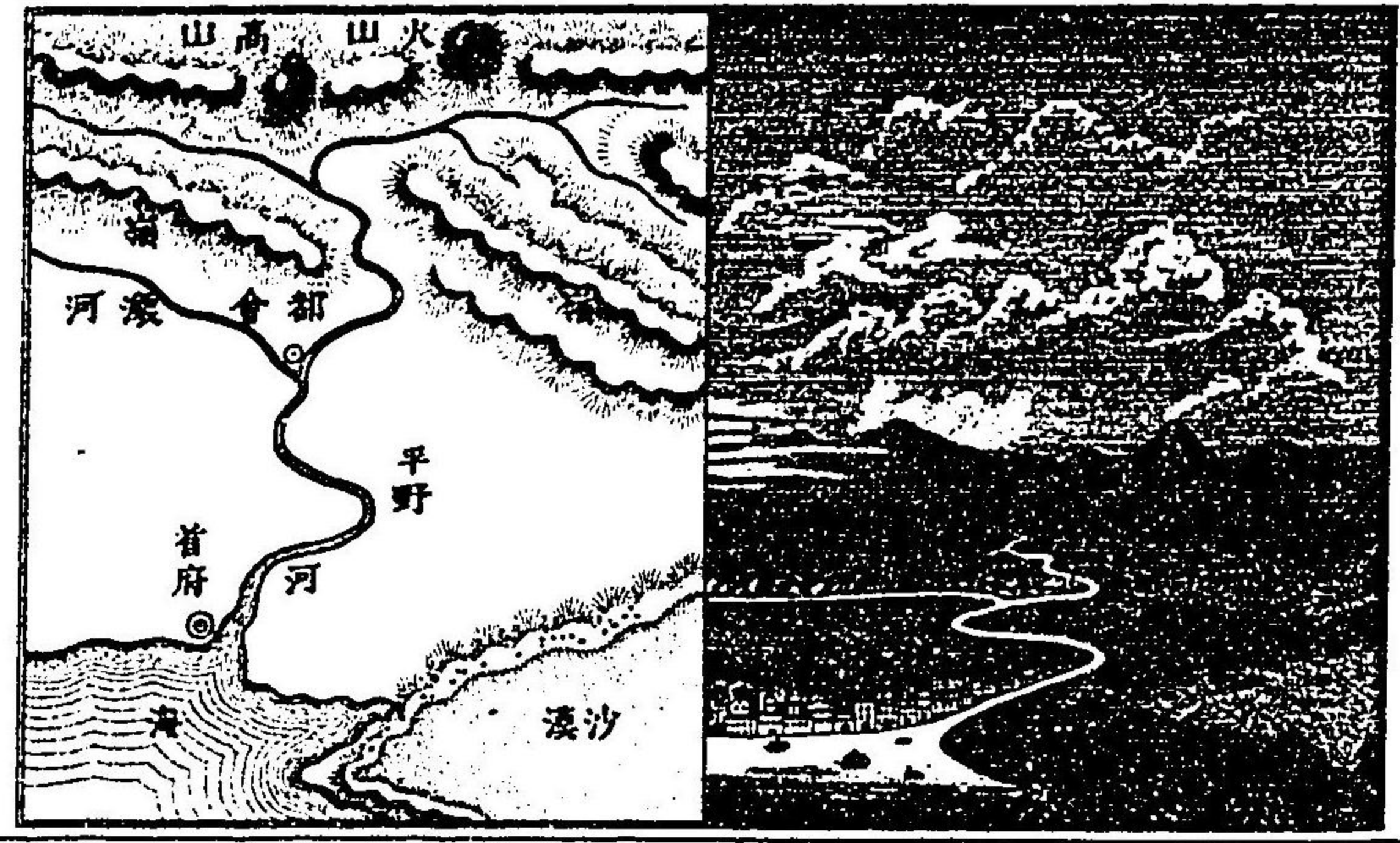


世界地圖



對照圖

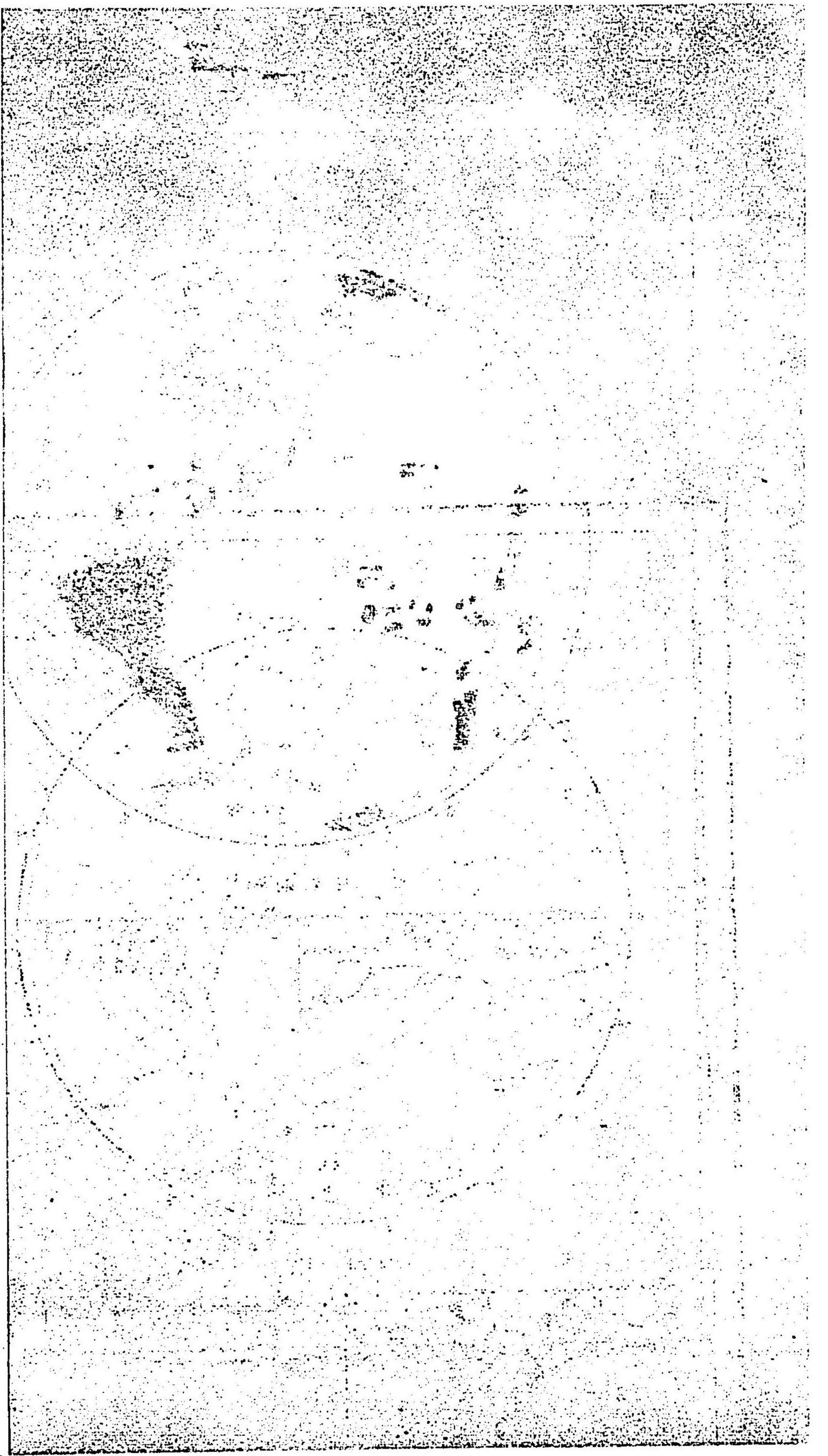
本加多圖式





余が半球地圖を見よ。地圖中某の部は。五彩と色どり。某の部は白きと見ん。其彩色せる所の陸はして。白き處は水あり。地圖の方角は。常に頂上を北とし。右方を東とし。下底を南とし。左方を西とある者と知るべし。兩半球は。一と東半球と稱へ。一は西半球と稱ふ。東半球は。東大陸。南大陸。及無數の島々あり。大陸とい。廣大ある陸地の義にして。島は陸地の小ある者の名あり。

東大陸は。亞細亞。歐羅巴。及亞弗利加と稱ふる三大洲の區別あり。亞細亞は大陸の東北部にして。蒙古人種多く此に住む。蒙古人種は。又亞細亞人種とも稱へ。





皮膚黄色を帯ぶ。余等日本人は皆其種あり。亞細亞ハ人類の始めて生育せし所にして。古代より隆盛ふる邦國なり。所あり。土地最廣く。人口も亦最多し。

歐羅巴ハ亞細亞の西に在り。高加索と稱ふる白人種の住居する所あり。土地最小なれども。人民多く。智識も富み。工藝も巧み。壯麗の家屋に住。輕暖の衣服を著け。鮮美の食物を食ふ。これと當今世界中の樂土と稱ふべし。

亞弗利加ハ大陸の西南部に在りて。大なる半島の形となす。半島といへ。周邊殆ど水に圍まれ。地面の一方僅に大地に續きたる者と云ふ。此洲ハ以日阿比人と稱ふる黑人種の住居する所あり。

南大陸ハ其東北に散布する。無數の島々を併せて。阿西亞尼亞と稱へ。區域兩半球に跨る。此洲の某の島は。馬來人種と稱ふる棕色の人民あり。

西半球は。つりて。長く南北に延びたる陸地と西大陸と稱ふ。亞美利加是あり。亞美利加ハ二千百五十二年に當り。歐羅巴の人閣龍が見出た。所とす。閣龍ハ當時僅に三艘の小船を率る。踏も習をぬ。茫々たる大洋に。數月の航海を爲し。世人の夢にたふ思をさる。新大陸を見出したる。希世の豪傑あり。

亞美利加ハ時としてハ新世界と稱ふ。是閣龍が亞美

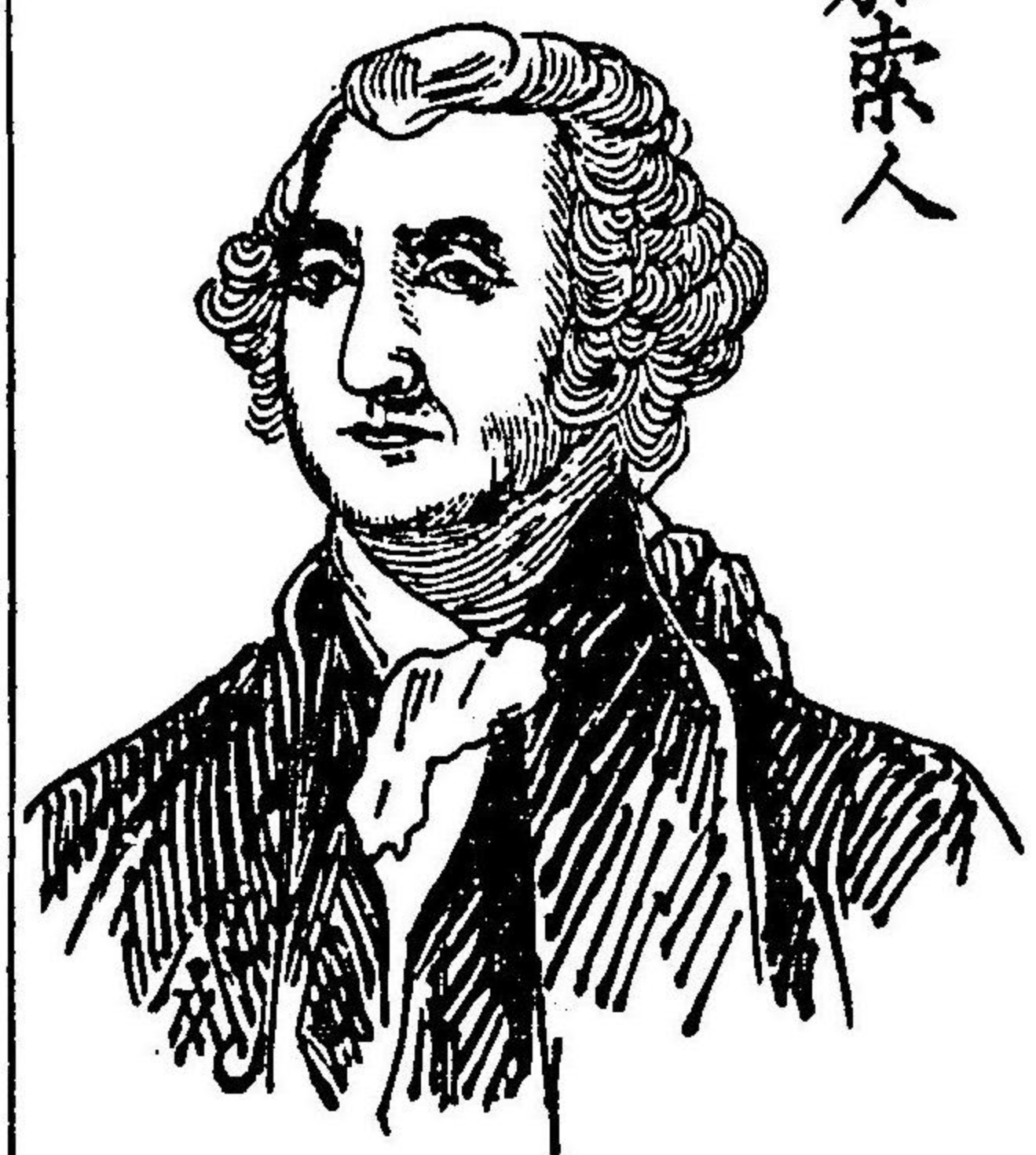


利加と見出す前より人々知らきたる。東半球の大陸と。舊世界と稱ふるは對する語あり。

亞美利加の。印甸と稱ふる銅色人種あり。彼等の樹林の中は住み。漁獵を以て生計を營む。然るは當今の高加索人種此地は繁殖し。此人種を見ること漸く罕なるに至る。

亞美利加の。近來世は出でたる新世界ふれども。此地は移り住める人民の。概歐羅巴の人あるを以て。當今の舊世界は抗ふべき程の權力を有ち。中にも北亞美利加の人。最開化し進み。最幸福を得たり。是は於て。汝は世界中の。東西及南の三大陸あり。三大

高加索人



蒙古人



以阿比人



印甸



馬來人





陸及無數の島々の。更に亞細亞歐羅巴亞弗利加亞美利加及阿西亞尼亞の五大洲は別を蒙古高加索以日阿比印甸馬來の五人種有りて。此は住むることを知りたるをらん。然るも水は亦五つの大區別有りて。亞細亞の東亞美利加の西あるを太平洋と云ひ。亞細亞の南あるを印度洋と云ひ。歐羅巴亞弗利加と亞美利加の間あるを大西洋と云ひ。北極の邊ふあるを北極洋と云ひ。南極の邊ふあるを南極洋と云ふなり。洋といふ水派洋々極まりなき所を云ふ。其較狭き所は別をこれと海と稱ふ。洋海の水は皆鹽分を含み。又潮汐にて。一晝夜は二回の満干ある者あり。

此陸地と水とを較ぶる時ハ水ハ陸よりも迥る廣くして。大略三と一との比例の如し。此他尚世界の北と南の極まる所ハ水ヲ將陸と詳よせざる處有り。然るも近來南極の周邊に於て。維多利哥拉罕。遠達爾比等の陸地を發見し。これを南極大陸といふ名づけたり。此陸地と水底といふ凹凸一様あるが。陸地は有りて高きハ山或ハ丘と云ひ。低きハ谷と云ひ。谷は沿ひ流るる水と河或ハ江と云ふ。水底は有りてハ高低と云ハずして淺深と云ふ。即水底の高き處ハ淺くして。低き處ハ深きあり。



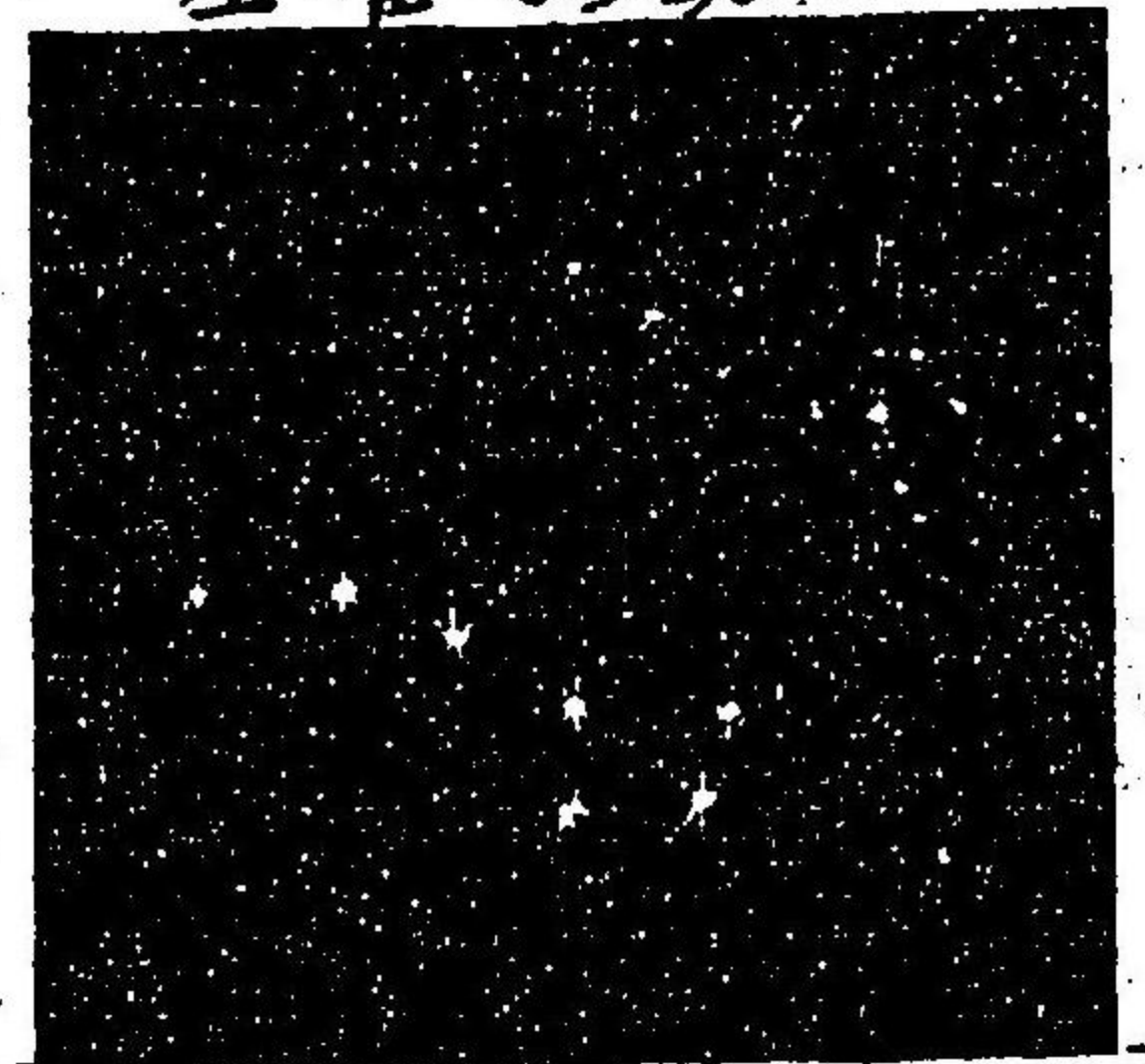
第四章 世界の續

汝の前の地圖上は多くの縦横線を畫せると見ん。其東西は通りたる横線はこれを緯線と稱へ。南北は通りたる縦線はこれを經線と稱ふ。是世界は素球形あるに由り。斯の如き想像の圈線と畫きて。水と陸との位置を定め。其距離を度るに便りたる者にて。地圖を描くに最要用の者とん。

又汝は緯線の中央は東西は通りたる一線あると見ん。是地球の真中を横截りたる大圈にして。これを赤道と名づく。又地球の北は極まる所。即北辰星下は當りたる一點はこれを北極と名づけ。其反對の處は南極なり。

きと南極と名づく。地圖上は在りて。經線の一點は湊合する處は。即此二極なり。

北辰及七曜星



經線及緯線は地球を三百六十度に分ちて。畫きたる者なり。緯線は赤道と元として。北緯幾度南緯幾度と數へ。經線は日本にて。東京子午線と元として。東經幾度西經幾度と數ふる者とする。但前の地圖はこれを略し。二十度毎に一線と畫きたる者あり。

汝は地圖上は於て。赤道の南北は尚四條の點線あると見ん。其赤道の北は在る二線は。夏至線と北極圈は



して南に在る二線ハ冬至線と南極圈なり。斯の如く説き來らば。汝等或ハ地圖上の線ハ何きも現ハ圈と云はる者なきことと怪む者つくん。是其理あり。此地圖ハ前にも説きたる如く。半球に分てる者たるを以て。其圈線も亦自半圈をふさぐることと得ざるなり。

第五章 世界の續

夏至線と冬至線との間ハ熱帯と稱ふ。亞細亞の南端。亞弗利加亞美利加の中央部等是あり。熱帯といハ氣候炎熱ある地方の義ふして。年中酷暑燻く如く。唯乾濕二候の變化あるのみなり。

尚半球儀を以て指し教せんこととせよ

夏至線より北極圈に至るまでハ北温帯と稱へ。冬至線より南極圈に至るまでハ南温帯と稱ふ。亞細亞歐羅巴の廣遠ある地方。亞美利加の北部及南部等是あり。温帯ハ氣候温和ある地方の義ふして。一年ハ春夏秋冬の四季なり。

温帯中の諸國ハ春來まじハ氣候漸く暖り。草木芽を萌し。百花笑と含み。雁ハ寒地を尋ねて去り。燕ハ暖所を逐ふて來り。禽鳥聲と弄し。偶と求め。巢と造り。満目の春光實は愛す可く。人の野は出で。田と耕し。種を下す。

晝漸く長く。氣候漸く熱し。是恰夏の時なり。觸目の光



景是不至りて變じ。草木榮と競ひ。花の實と結び。鳥を  
雛を孵して巢と辭し。人の稻田を耘り。隴麥と刈る。  
氣候又一變し。晝漸く短く。夜隨ひて涼しく。燕去り。雁  
來り。兒童の果實の熟るるを怡び。農家の收穫は忙し  
く。露結び。雲凍りて。草木漸く黃落す。是恰秋の時あり。  
冬隨ひて來まば。水は氷を結び。滿地時ふ白毛の大羅  
襪と敷き。北地に至まば。人家全く雪は鎖され。人の火  
爐と擁して暖と取る。然まども。寒氣極まれば。陽氣復  
り。恰寒梅花綻ぶるの時。及ぶ。是四時變化の概況あ  
り。

又北極圏と北極との間は。北寒帯と稱へ。南極圏と南

極との間は。南寒帯と稱ふ。亞細亞。亞美利加の北端等  
是あり。寒帯といは。氣候寒冽ある地方の義ふして。一年  
唯夏冬の二季あり。極は近き所は。冰雪終古消ゆるこ  
となく。而して其夏時の長き晝にして。冬時の長き夜  
あり。

是は於て。汝は世界は熱帯北温帯南温帯北寒帯南寒  
帯の五帯あることを知りたるあらん。然まども。汝を  
温帯の氣候一樣は温和は熱帯に至まば。俄は熱く。寒  
帯に入まば。忽ち寒き者と思ふこと勿き。五帯の別は。唯  
其大概を示すのみにて。氣候は概赤道を遠ざかるふ  
隨ひ。漸次は熱度を減する者なり。



然るも氣候異なるま  
 ば。人類鳥獸草木も  
 亦隨ひて異同あるま  
 こと能をば。今其大  
 略を汝に語らん。  
 熱帯の人ハ性質懶  
 惰ふしく。生業を勉  
 めず。多くハ茅屋に  
 住み。裸體を常とし。  
 天然に成熟する果  
 實を食ふ。此地方ハ

三帯の景況



ハ。野獸の猛き者。爬蟲の毒ある者。鳥類の麗き者多  
 く。植物の生長殊に盛なり。

温帯の人ハ。身體健ふしく。智慮深く。木造石造等の美  
 麗なる家屋に住み。絹布毛布等の輕暖なる衣服を著  
 け。獸類も馬牛羊等の有用なる者多く。又多く穀物  
 果物を産む。

寒帯の人ハ。毛皮の衣服を著け。幽暗不快なる矮屋土  
 窟に住み。性質愚鈍あり。此地方の人の衣食となる物  
 少し。羆馴鹿及鯨海狗等の海獸ありて。植物に至りて

世界の各所ハ。又礦物あり。皆地中より得る所のも



のにて其貴き者也。金銀鐵及金剛石。紅玉青玉等。此  
又石炭の燃し薪を充て。或は氣燈を製し可き要用  
の礦物あり。

今世界の談話を終るに臨みて更は汝小問ふ可きこ  
とあり。汝の曾て親しく世界の一部分を見しことあり  
や。又世界の球の如く圓ある形を見しことありや。又  
地理學とい。如何なる學問あるや。

月面の影  
等ふより  
て證據を  
立つ可し

### 第六章 各國志緒言

余の前は世界は五つの大洲ありて。五種の人民。此  
は住居をること汝は語まら。今余が此五大洲と五  
人種を就きて。更は何如ある事と説き出すると聽け。  
抑此五大洲と稱するは。廣大なる世界の陸地を五小  
分ちたる者あるを以て。廣きは三千餘里は互り。狭き  
も尚千餘里あり。人民は僅か五種は過ぎざれども。其  
數に至りては。大略十三億以上は登まら。

此人民は互に相集りて。大洲中某の地方に住して。遂  
は一國を成し。當今に至りては。著名なる邦國凡三十  
餘あり。我日本の如きも。亦其中屈指の一國あり。小國



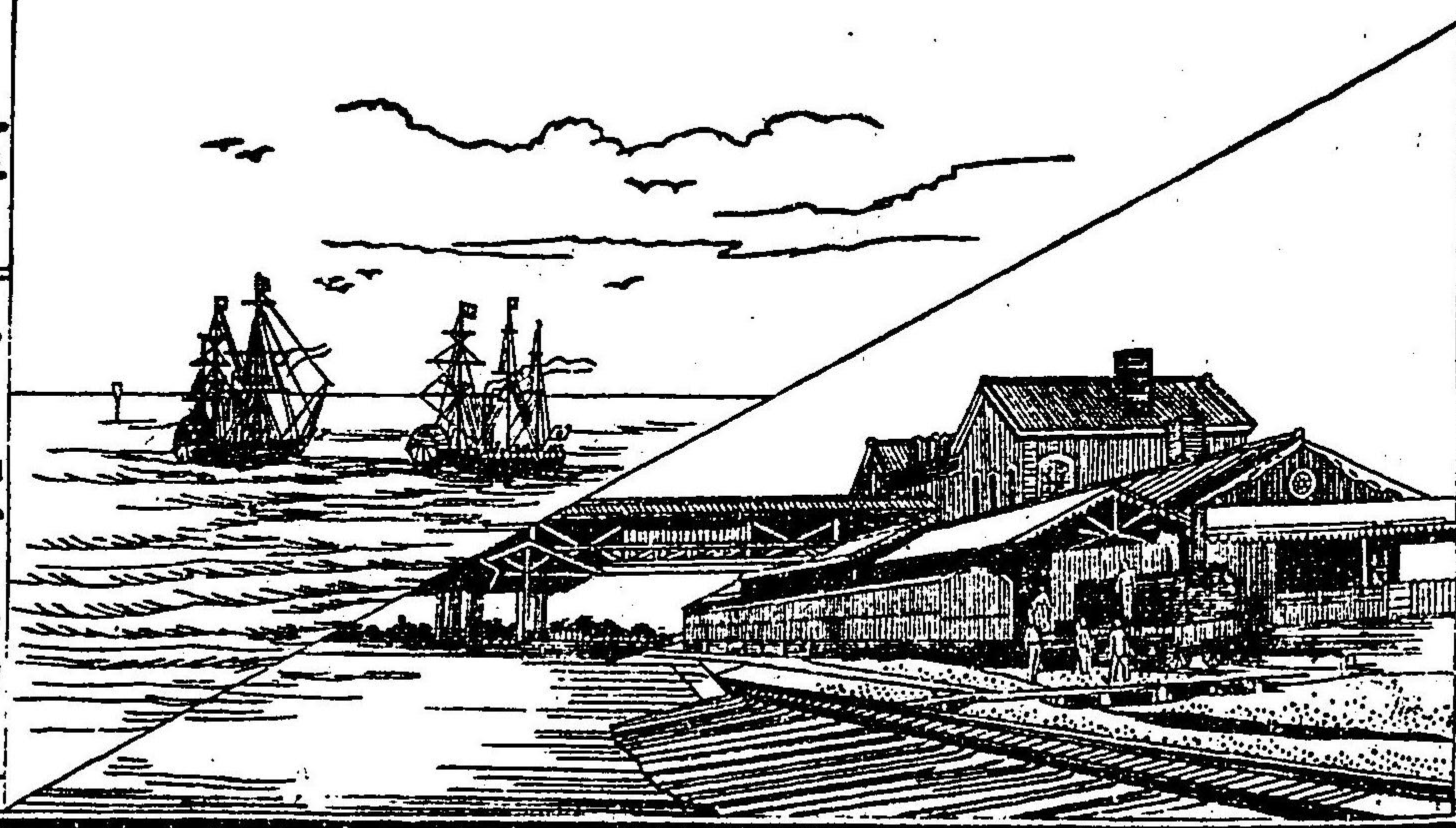
部落をなせる者。其數甚多し。余是より各國志の談話を始め。其地理風俗等と汝と語らんとす。

此等の國々の間には。概海山等の障塞と爲せる者あり。を以て。古代は在りては。各國の人民交通の境甚狭く。中にも東洋人と西洋人との如きは。海山數千里の路を隔つるを以て。三百餘年前まで。全く交通と爲さざりしなり。

然るに。昔の人。地の圓きも知る由なく。或は大地を平面にして。方形ある者と考へ。或は巨大なる龜の背上に立ちたる。四箇の象頭にて支ふる。半球形の者と想像せしこと云ふ話あり。

然るに。近來人の智識大に進むに隨ひ。暫時は數百里を走る汽船。汽車等を造り出さくよう。斯く許り廣大ある世界も。今ハ容易くこれを一週するに至り。日本より歐羅巴に至るまで。ハ海路大略四千餘里を隔つまじも。四五十日を出でず。此小達もこのことを得

汽船及汽車





可きあり。

汝若時と得て。世界と周遊せば。或時ハ高山に登り。大江を渉り。或時ハ人煙繁盛なる都會と過ぎ。風光秀麗ある山水を探り。或時ハ古人の遺蹟を訪ふこと何らん。而して汝が至る所の國人其俗を同くせば。鳥獸草木亦目ふ新なる者多きを見ん。然らば世界と遊行せるの愉快あること。果して何如ぞや。然るも幼穉の身ふてい。世界を周遊すること。容易あらず。暫く余が各國志の談話を聽きて。満足せば。い何るべからず。

汝地理を學むんと欲せば。先地圖を熟覽して。水陸の

位置山河の形勢等を察せべし。地圖中よ記載する所便あらずる者ハ。余各國志ふ於てこれを語らん。

地圖の中ハ。中心一點の白き所を存し。其四邊ハ。黒線を密畫せる者ハ。天邊より瞰下むの如くハ。山岳を圖せし者あり。即其白き所ハ。山頂ふして。四邊の黒線を。山趾の四方ハ。横つる所を顯る者とす。其長く續きたるハ。これを嶺或ハ山脈と稱ふ。即相連りたる山岳なり。

但余が示す所の地圖ハ。汝兒童の理會に入り易きを旨とせる略圖ふして。固より測量圖の種類ハ。非ざれば。山脈の如きも。唯主眼ある山岳の連りたる所を示

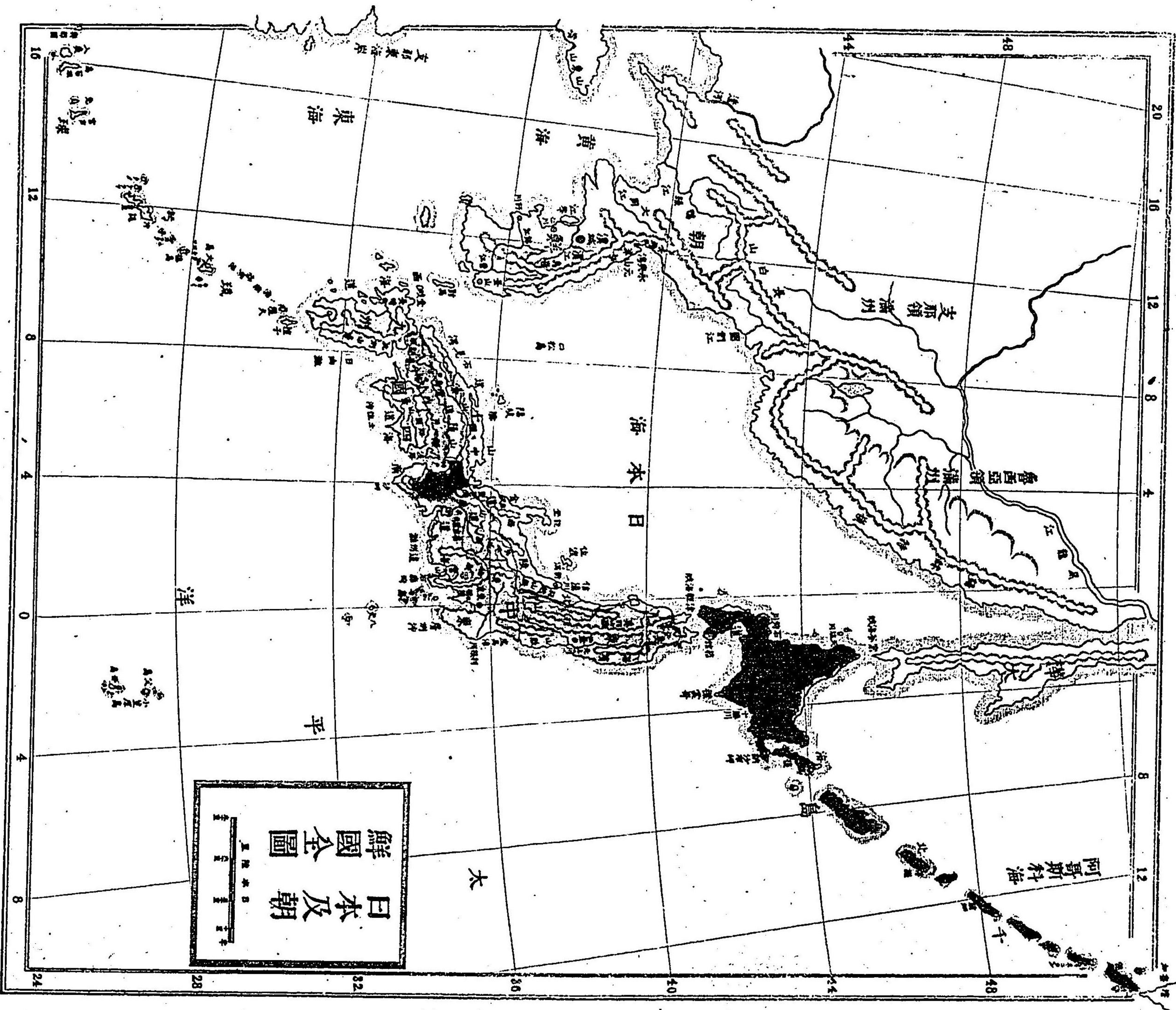


し。他いづれを略せり。汝られを見て。某の地よ。此山脈より外ふ。一の山岳ふしと思ふこと勿き。

地圖中。黒線の蜿蜒せる者。是江河あり。黒點を亂打し。沙を撒らす。如き者。沙漠として。草木生ぜざる。沙原あり。圈線内ふ。黒點を打ちたる。都會ふして。其圈の二重ある者。首府の符あり。首府とい。其國の政府の在る所を云ふ。

但江河及都會の如きも。亦唯主眼ある者のみを記載せる者と知る可し。





日本及朝鮮國全圖



第七章 日本志

余意ふは。世界の國ハ多しと雖。汝兒童の尤愛する國ハ。汝が自國ハ若く者ある可し。殊ハ同國ハ住める人民ハ。交通尤繁ク。關係甚密あるを以て。自國の志ハ。委くこれに學ぶこと。尤肝要なりと爲す。

故ハ余ハ。各國志の談話を我國より始め。且委く其志を語らんとす。汝數月の間。勉めて余が語る所の事を聽け。既ハ我國の志を終ふるの後ハ。余ハ直ハ外國志の談話に移り。汝ハ其珍奇愉快ある事實を語らんとす。

汝ハ定めて我國の名を知りたるあらん前ハ示す所



の地圖を見よ。即我國ハ亞細亞東方の數大島ニ位を  
るを見ん。蝦夷中土四國九州及琉球ハ皆其部内不し  
て。これを總稱して日本と云ふことハ意ふは汝が能  
く知る所なり。

地球儀を  
以て指示  
せよ

我國の東ハ渺茫として極まりなき太平洋なり。汝  
これを越えて東ニ進まば。遂小亞美利加ニ達を可し。  
北ハ日本海と稱ふる大海なり。此海を隔てて相對  
する國を朝鮮及魯西亞の滿州と云ふ。西ハ大海なり。こ  
きを東海と稱ふ。即支那と稱ふる國の東の海なり。  
我國の地形ハ狭くして長く。蝦夷島の東北の端より。  
九州の西南の端に至るまで長凡五百里なり。蝦夷

島の東北ハ尚千島諸島斷續して。堪察加の半島ハ  
密邇し九州の西南ハ琉球諸島散布して。臺灣島ハ  
附近し。又南海ハ小笠原島と稱ふる一群の島嶼ハ  
也。

地勢ハ中土の中部ハ坤艮の方位ハ互を連る三大山脈  
なり。數多の高山此間ハ秀で地面最高し。其東山脈ハ  
更ハ二脈ハ分きて。遠く北ハ連り。西山脈ハ南ハ走り  
て。南海ハ迫る。中土の西部及四國九州蝦夷の内部ハ  
も。各數派の山嶺なり。屈曲連延し。國內到る處ハ山  
岳多し。

富士山ハ我國ニ在りてハ最善く人ニ知られたる名



山なり。此山の東海の表に聳え、形恰播盆を倒し置けるが如く、雪降り積る時、其觀更に棒砂糖の山に似たり。其畫に顧みれば、汝屢これを見たるをらん。

琵琶湖は、殆中土の東部と西部の高地を隔つる凹處にして、其形琵琶に似たり。湖と陸地の凹處に湛えたる水の體、少く洋海の潮の通をぬ所あり。

前記説きたる如く、内地山岳多きを因り、川流甚多し。雖地形狭きを以て、皆長流を爲さず、至らば、然まども、中土の利根、信濃、及木曾川、蝦夷の石狩川等、其流頗大、其谷を平野頗廣し。平野といへば、廣くして平ある地面の義、ふして或は、たゞを平原と稱ふることあり。

我國は、温帶の中部に在るを以て、氣候甚熱、うづば、又甚寒、うづば、余が世界の談話に於て、汝は語りたる温帶四季の變化に、恰我國氣候の實況あり。地味は一般に肥沃にして、農業盛に行はる。

産物に穀物、魚類、獸類、材木、果物、礦屬等、人生に必用なるもの、概これなり。茶、生絲、絹帛、陶器、漆器等は、外國輸出品中の主眼ある者あり。中にも漆器は、名譽の産物にして、西洋人のこれを日本と唱ふ。又多く酒を産まねども、余等が爲すは、全く無用の物なり。

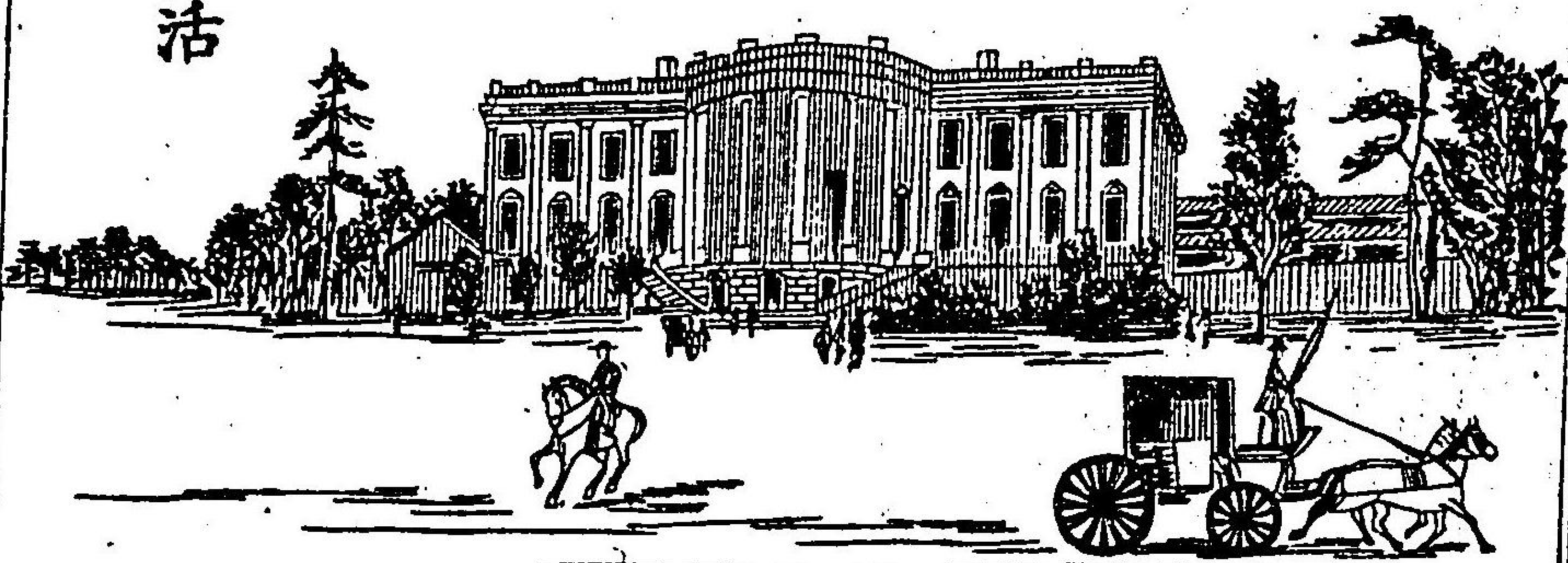
我日本の人口は、凡三千四百三十八萬八千餘なり。世界中人煙稠密ある地方の一あり。人民中華族、土族、平



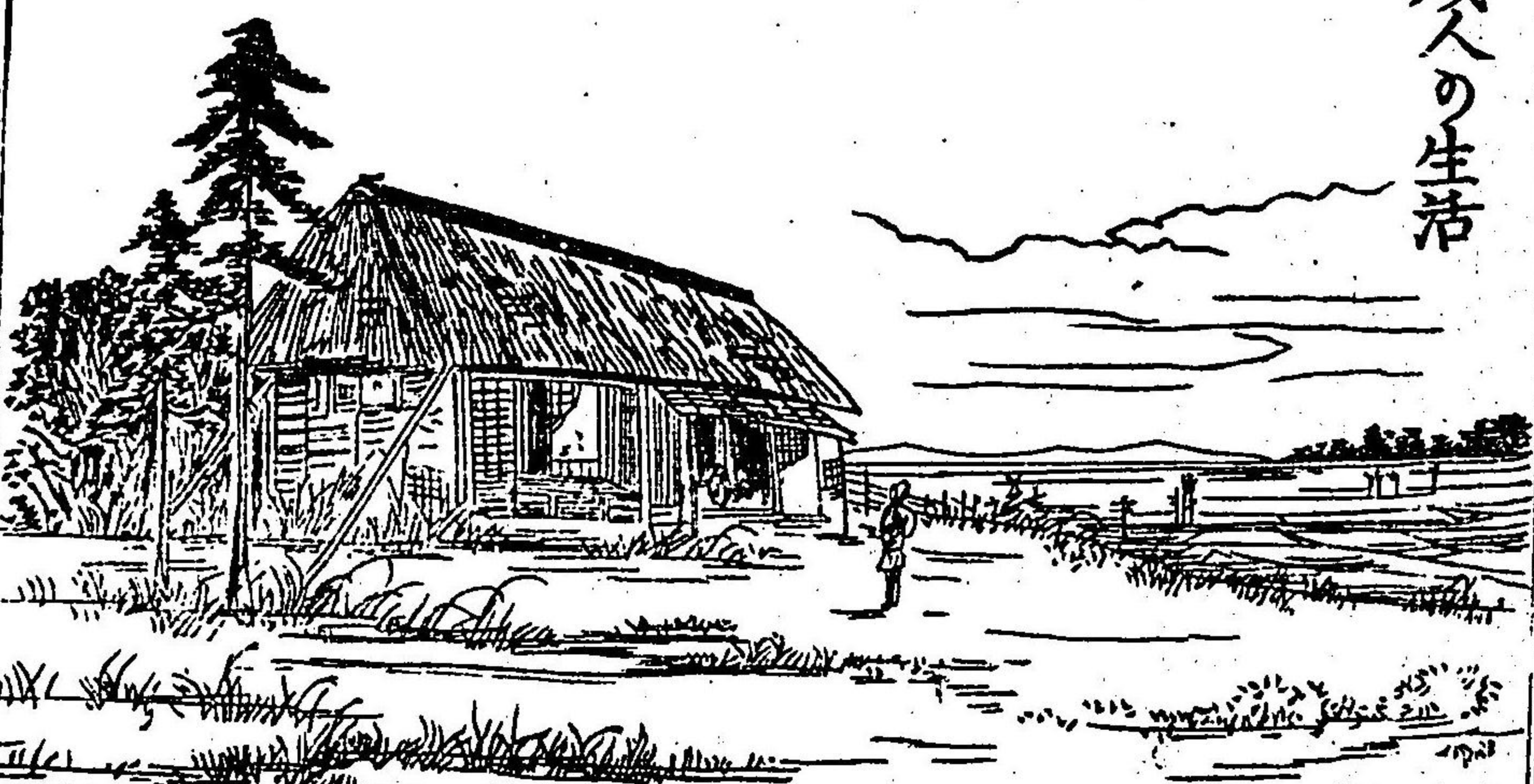
民の等級あることハ。汝既ヨこれを聞きたるならん。然まども人間々。族高きを以て貴ク。智識あるを以て貴まきなり。

我國の都會ヨ住まゐる富貴の人ハ。石造或ハ木造の美麗清雅ある家屋ヨ居リ。絹布或ハ毛布の輕暖ある衣裳を著け。外ヨ出づる時ハ。袴羽織を著け。帽を戴き。靴を穿ち。車馬ヨ乘りて行く。然るも田舎間貧賤の人ハ。至りてハ。卑矮の白屋ヨ居リ。四壁ハ粗雜ある粘土ヨて造リ。屋ハ掩ふハ茅或ハ藁を以てシ。甚しきハ。板ノ床も張ること能はざりて。蓆を地面ヨ敷きて座をる者あり。木棉の鹿服を著け。行く時ハ半纏股引を著

富貴人の生活



貧賤人の生活





け。頭は笠或は手巾を被り。足は草鞋を穿つを常とす。富貴人と貧賤人の生活の相異あること。斯の如し。其幸不幸果して何如ぞや。然るも此富貴と貧賤とい。畢竟智識の高下の外面に現れたる者。過ぎず。少年の人。これを見ても。自奮て學問を修め。智識を研う。ハ何る可うござらる。あり。

我日本の全國に。畿内東海道東山道北陸道北海道山陰道山陽道南海道及西海道の九部は大別するを常とす。畿内の中土の殆中央ある一地方あり。汝地圖中は。紅色は彩色せる地方あるを見ん。是即畿内あり。此地方は。昔より我國の首府即帝都の多く在りし所なるを以て。畿内の稱なり。他の八道は。皆これを中心として。分劃したる者なり。

即地圖中は。示す如く。畿内の東は在りて。海を帯びたる地方を東海道とし。其内部は在るを東山道と云。然るも其東北部ある奥羽の地は。共は海を帯びたり。又東山道は併びて。北海は面する地方を北陸道と稱へ。北海中は在る蝦夷及千島は。北海道と稱ふ。

中土の西部即畿内の西ある地方は。一帯の山脈あること。既ふこれを汝は語ま。此山脈の北ある地方は。山陰道なり。南あるは山陽道あり。畿内の南は接して海を帯びたる地方。及南海中の四國。其他の島を。



これを南海道と稱へ。九州及附近の島々ハ日本西海中の一地方あるを以てこれを西海道と稱ふるあり。然る小畿内及八道の内ハ更ニ州と稱ふる小別あり。其數凡ハ十五あり。然まども余ハ暫ク畿内及八道の大區別ヲ從ヒ我國の地理の大略を汝ハ語らんと。尤余ハ汝ガ學力進歩シク。他日余ガ各州志の詳細ある談話を聽クハ至らんことを期望するあり。

新撰地理小志卷一畢

地名及人名讀例

蒙古人	高加索人	以日阿比人	馬來人	印甸
閣龍	阿西亞尼亞	維多利亞	哥拉罕	遠達爾比
魯西亞	支那	滿州	堪察加	黑龍江
崑崙山	喜馬拉山	貌利太	尼羅河	楊子江
哥里蘭	落機山	巴拿馬	安的斯山	尼日爾河
新西蘭	錫赫特嶺	浦潮斯德	圖們江	三維斯島
鴨綠江	大同江	漢城	漢江	長白山
永興灣	遼河	山東	麥加多	江華
				磨天嶺



明治十二年二月一日版權免許  
全 十七年九月十五日四板御屈

編者

山形縣士族

山田行元

東京石川區小日向臺町  
一丁目十九番地寄留

出版人

山形縣士族

山田

仙田儼

東京石川區小日向臺町  
一丁目十九番地寄留

# 賣 捌 書 林

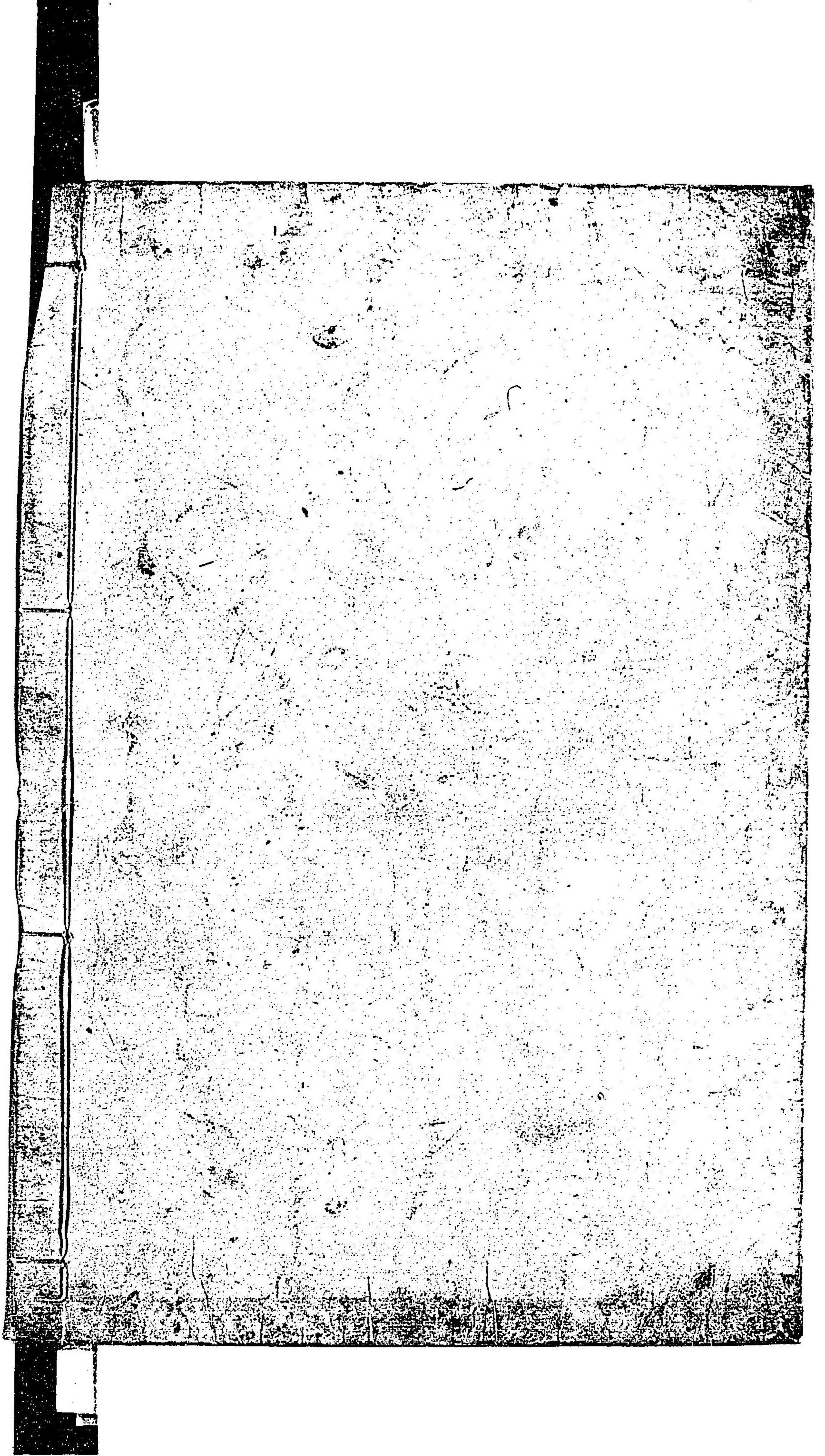
東京泉橋通  
全 芝三島町  
全 横山町  
全 泉橋通三丁目  
全 本町三丁目  
全 銀座通  
全 馬喰町  
全 通落籠町  
全 通油町  
全 泉橋通三丁目  
全 銀座四丁目  
全 本町四丁目  
大坂本町  
全 備後町  
全 唐物町  
全 海橋通

丸屋善七  
山中兵衛  
出雲寺萬次郎  
稻田佐兵衛  
柳河梅次郎  
山中孝之助  
石川治兵衛  
東生龜治郎  
水野慶治郎  
小林新兵衛  
博聞社  
文島真七社  
岡島真七  
梅原龜七  
利見又吉郎  
此村庄輔

全 坂  
全 京畿總領事  
全 藤通萬真  
全 四條  
全 寺通御池南  
越前驛  
全 森  
全 益  
全 近  
全 近  
全 大  
全 能  
全 土  
全 向

前川善兵衛  
丸善支店  
村上勘兵衛  
出雲寺文次郎  
田中治兵衛  
佐々木總四郎  
岡崎左喜介  
森下元次郎  
酒井安兵衛  
益智館  
近八右衛門  
近田太三郎  
大橋甚吾  
能勢嘉衛門  
土肥與平  
向井藏次郎







新撰地理小志

山田行元編

元



特31

535

022002-001-0

特31-535

新撰地理小志

山田 行元/編

M16-17

ADA-0270

